



St.Luke
The annual report
2017

2017 2017.1.1▶2017.12.31



医療法人 セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目 次

巻頭言	1
一年を振り返って	
医 局	3
心理専門相談室	4
看護部	5
研究室・培養室	7
受 付	8
情報処理室	9
厨 房	11
診療統計	
開院から2017年までの成績	
当院の患者数・妊娠に至った主たる有効治療	14
妊娠の転帰・出産結果	15
初診後妊娠までの期間	16
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断	16
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	16
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率	17
ART(生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠	17
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	17
妊娠数	18
2017年一年間の成績	
外来患者数・初診患者数	20
不妊治療費助成金申請内訳	21
妊娠の内訳(妊娠に至った主たる有効治療・妊娠の転帰)	22
出産結果・異常児の詳細	23
手術・入院数	24
ART(生殖補助医療)による妊娠	25
ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況	25
セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ	28
行事一覧	29
著書(共著)一覧	37
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	38
スタッフ配置	42
有資格者	42
病院概要	43

卷頭言

宇津宮 隆史

開院して26年に入った。この間、外来患者数は27,000人、妊娠数は8,600件を超え、最近では妊娠の有効治療はART（生殖補助医療：体外受精、顕微授精、凍結胚移植を指す）が50%に近づいてきた。そして感慨深いのは、開院4ヵ月目に妊娠に成功したART児第1号が今年医学部を卒業、国家試験に合格し、晴れて医師になったことである。そのほか当院で生を得た多くの子どもたちが社会に貢献すべく、社会人として活躍をはじめていることを聞く。我々の活動が世の中に役立っていることを示している。その間、13,000例を超す採卵、5,000例を超す全身麻酔での腹腔鏡手術、開腹手術を行い、1例も不幸な転帰を経験していないことは全く神様のお守りの結果であるとしか言いようがない。

私は1973年大学卒業であるが、その5年後、1978年にイギリスで体外受精が成功した。その直後からこの分野は目覚ましい発展を遂げることになった。それもこのARTから得られる知見が格段に増加したことによると考えられる。革命である。それまでは「専門は不妊治療」と言えば、「ああ、あの基礎体温とか、フーナーテストとかの…」という程度で、全くマイナーな分野であり、相当、格下にみられていたことを思い出す。今やその発展により、産婦人科では周産期、腫瘍に並び、主要な分野の一つとして認められるようになった。

しかし、おいしいところだけを狙った、初めからART、それも患者を選ばず自然周期、低刺激周期を行う新興勢力、特に美容整形クリニックがマニュアルでARTを行っていると聞くと、これはどうにかしなければと思う時世もある。

日本のARTの成績は多胎妊娠率、凍結胚移植妊娠率が世界一である半面、採卵あたりの妊娠率は最低である。自然周期、低刺激周期法の採卵あたりの妊娠率は4%といわれている。調節刺激周期では（当院では）53%である。

我々の仕事で重要なことは、安全性、正確性、そして生まれてくる子の健康である。

安全性については、13年前から日本卵子学会で扶桑薬品工業株式会社と組んで研究、開発してきた培養液の開発がある。現在使用されている培養液はほとんどが外国製で、成分が公表されていないものがほとんどで、何かトラブルがあっても明確な回答は得られない状態である。そこで13年前、「日本人にあった培養液を日本で開発しよう」という呼びかけに呼応し、私は真っ先に参加した。そして当院で腹腔鏡下に卵管内液を採取し、それを扶桑薬品が分析、改良し、昨年、これが完成し、HiGROW OVITという名前で先行販売が開始された。その成績は、従来の培養液に比べ、常に10%ほど良好で、ほかのクリニックからも同様な結果が報告されている。世界で初めてヒトの卵管内液を分析して出来た培養液であるから良い成績を出すのは当然であろう。これは扶桑薬品から今年のESHRE（ヨーロッパ生殖医学会）、当院からASRM（アメリカ生殖医学会）にて発表する予定である。

また、正確性については、着床前の胚の染色体異常検査（PGT-A）があり、これは昨年から日本産科婦人

科学会（日産婦）主導でパイロットスタディが始まった。当院は東京、大阪のクリニックとともに3カ所の実施機関の一つとして加わり、もうすぐ結果が出る。これが日常診療に利用できるようになると、効率の良い、特に高齢で時間の限られている患者さんに対して早く結果が出せるようになることが期待されている。

生まれた児の健康についての調査では、これも日産婦主導で前厚生労働科学研究費補助金、現 AMED（日本医療研究開発機構）研究費をもとに「ARTで生まれた児3,000人を15歳まで調査する」として始まり、JISART（日本生殖補助医療標準化機関）で実際の調査を引き受け、当院が4,000件以上に上る調査票の配布、回収などの実務を行ってきた。

現在、2008年の治療にて出生した児の8歳時点での調査結果を集計中である。これまでの調査結果より、身体発育、精神発育ともにほとんど通常妊娠の児とは変わらず、やや身長、体重が大きい傾向はあるも、成長とともに差はなくなっている。とはいってもインプリントなど注意しなければならないし、成人するまで調査すべきであろう。世界的にはこのような3,000名を超える大規模な、また15年以上をかけた長期間の調査報告はない。貴重な成果となることは目に見えていると思う。

平和園は現在、順調に経過している。合計約50名の2歳から18歳までの子どもが生活している。現在のスタッフが良く頑張っており、今年はうれしいことにバーンアウトによると思われる退職がなかった。また、子どもたちの態度も非常によくなってきた。これらは今の指導体制、就業理念、問題解決方法、職場環境が良いことを表すものと思われる。

また、経済的にも、私が理事長になった当初、ある公認会計士に審査してもらった結果、「このような会計状態ではだれも理事には怖くてなれません」と言われたことで驚愕したものだが、その後、会計士のご指導により、また、多くの方々の金銭的、物品的、活動的、そして精神的ご寄付を得て、今では十分の余裕をもっての経営ができるようになったことを報告できるのはうれしい限りである。

しかし、昨今の傾向から、国からは男女の住環境隔離を求められている。平和園は当初から男女とはいえ、「兄弟姉妹」であるとして、本当の家族のように生活する環境を大切にしてきた。そして性トラブルは早くから適切な指導を行ってきており、重大事故はなかった。しかしこの件については、残念ながらその方向に進めざるを得ないであろう。

子どもの成長は早いものである。私が理事長に就任した時に幼稚園児であった子がもう中学生である。この子たちが伸び伸び暮らせるもっと良い環境を作るために、平和園内に教会を移転することを計画している。これが実現すると、教員に限らず、平和園の子どもたち、職員、そして周囲の住民の方々にも良い影響を与えるようになると期待できる。

平和園の子どもたちのために、また職員のために、今後も皆様のご支援をお願いいたします。

一年を振り返って

医局

河邊 史子

2017年は生殖医療専門医として自分にできることは何かを考えながら模索し続けた一年であった。診察の質を高めなければならないという気持ちと、診察するスピードを上げ、予約時間からなるべく大幅に遅れないように終わらせなければいけないというプレッシャーに常に追い立てられながら毎日を過ごしたように思う。個人個人の状況や症状に応じた方針を立てたいという気持ちと、当院のスタンダードからは外れてはならないという制約のはざまで最適解を見つけるにはやはり時間がかかり、ジレンマを感じることが多かつた。患者の考え方や価値観も年々変化していき、患者と自分の年齢が離れていくとお互いの感覚もずれてくる可能性があり、いろいろと悩むことが多かった。院長、看護部、ラボ、受付、そして心理相談室の稗田先生に助けられながらなんとか一年を過ごすことができた。

一方でプライベートでは高校一年生と中学三年受験生を抱え、毎日の弁当作りや夕食だけでなく夜食の準備など苦手な家事が増えた。更年期も相まって不眠、寝不足に悩まされた。女性なら誰でもいずれ通る道とはいえ、運転中に眠くて仕方なくなることもあり、車の安全機能に助けられることも幾度かあった。

また、健康スポーツ医を取得後、2017年度は9回大会ドクターとして救護の勉強をする機会があった。打撲やねんざ、突き指などはもとより、脳震盪や骨折で救急搬送をすることもあり、もっと勉強する必要を感じた。院長の勧めもあり、2018年度は日本体育協会のスポーツドクター取得に挑戦することになった。空手の先生方から推薦もいただき、願書を提出したところである。

こうやって並べてみると周りのみんなに助けられた一年であったようである。もうしばらく更年期は続くのだろうが、ある意味産婦人科の腕の見せ所でもある。自分の体を実験台に更年期の治療もいろいろ試してみるのもおもしろい。自分が体験したことは容易に患者の気持ちを推察できるという利点もある。転んでもただでは起きない。今を乗り切ったら産婦人科医としてもっとグレードアップできるように、そして助けてもらった分、周りのみんなと患者さんにもっと返せるように頑張っていきたいと思う。

一年を振り返って

心理専門相談室

稗田 真由美

厚生労働省は社会的養護の支援の為に里親・養子縁組の推進をしている中で、各自治体も啓発活動を行っている。大分県は、500人くらいの子どもが施設やファミリーホームで過ごしている現状があり、大分県児童相談所が中心となり推進を行っている。

このような社会の流れの中で、当院では大分県中央児童相談所の協力により里親・養子縁組説明会を2016年より始め、2018年で5回目を迎えた。更に、3回目からは、“不妊治療を経て養子縁組をした夫婦の体験談”を交えた会を開催している。里親・養子縁組を社会福祉制度の一つとして広く知って頂きたいとの、治療が思うようにいかなくてもパパ・ママになれる一縷の望みとして頭の片隅に残しておいて頂ければという思いを込めている。

この会に参加する患者は、治療期間が長い方、年齢的に妊娠が難しくなっている方、また今後の為に情報を知りたい方など目的は様々である。患者は、体験者の治療していた時の話しと自分のことを重ね合わせながら聞いているため、自然な感情が溢れてくる様子が多く見られる。また、カウンセリングを通して、一度はお会いしたことのある患者も多いため、児童相談所との連携の中で、その後「○○さん里親・養子縁組登録しましたよ」と聞くと、うれしいのはもちろんのこと、何とも言えないホッとした気持ちになる。体験者が不妊治療中に里親・養子縁組をすることについて、「両親は賛成してくれるのか? 近所の人はどう思うだろうか? 子どもが大きくなったらどのように伝えるのか?」などの不安を持っていたと話していた。そして、現在進行形の患者も同じような不安がある為、一歩が踏み出せないという話を聞く。しかし、体験者の話の中で、「実際に子どもに会ってみると、頭の中で考えていた不安は一気に払拭され、この子だ! というインスピレーションが働く」と話していた。子どもを見ながら自然に夫婦で笑っていて、親になれて良かったと実感できたということが話し内容の一つとして印象に残っている。治療で妊娠して卒業していく患者の笑顔、里親・養子縁組を通してパパ・ママになった時の笑顔など、これからは様々な形態の夫婦・家族が誕生していく中で、一人ひとりが納得して次のステージへ進めるようなサポートができたらと思う。

一年を振り返って

看護部

手島 しおり

セント・ルカ産婦人科へ入職して8年が経ち、初めて「一年を振り返って」を書く機会をいただきました。看護学校を卒業して半年後に入職したため、当初は戸惑うことばかりで、先輩方にたくさん助けていただいだと思います。ここまで続けてこられたのは、院長先生や事務長、師長が学会参加や資格取得を勧めてくださり、不妊治療に関する知識や技術の向上に尽力してくださったおかげであると感謝しています。

この1年を振り返ってみると国内外の学会に参加させていただいたというのが、印象深い1年間でした。

初めて参加させていただいたESHRE（ヨーロッパ生殖医学会）はスイスのジュネーヴで開催され、看護・カウンセリングに関する発表も多くあり、その中でも配偶子提供に関する演題が多かったのが印象的でした。国内では不妊治療での「治療終結」に関する研究を行い、様々な学会で発表させていただきました。

当院では、看護部や心理士の先輩方が患者の要望を受け、治療終結をした元患者を招き、治療中の患者と話す機会を作るための会を2008年より運営しています。2013年に生殖医療相談士の資格を取得して以降、私自身もその会の運営に携わるようになり、「治療終結」の重要さを実感していましたが、今回の研究を通してこの会の重要性を改めて考えることができ、そしてそのことを伝えることが出来たと思います。

個人的には2016年に日本看護協会認定の不妊症看護認定看護師を取得し、これから研究や実践の場でも研鑽を積み、患者相談の充実化や患者さんへの細やかな対応ができるよう、資格を活かして活動していくたいと思っています。

看護部としても、患者さんが安心して通院できるような環境作りや、スタッフの知識・技術の向上に貢献していきたいと思います。

一年を振り返って

看護部

松元 恵利子

看護部の職員が、ここ数年間出入りが多く中々増えない状況で勤務体制も厳しい中、私の体力気力も自信がなくなり、どうなるのだろうと心配していましたが、昨年はやっと新人が増え始め、勤務体制も少しづつゆとりができたように思います。

新職員が増えて安堵感と嬉しさと、もう間近い私自身の勇退の寂しさもどこかで感じるようになりましたが、本当に良かったと思います。

入職して早17年が経ち、セント・ルカとの出会いでは、学もない力量もない私に様々な貴重な経験や体験を沢山させて頂きました。お陰様で「未見の我」に気づくこともできて感謝の思いでいっぱいです。

その中のひとつに40歳以上の患者会「オリーブの会」があります。2001年の第1期から携わっていますが、周りのスタッフの力量や援助が大きいので何とかついていくという感じです。

この会は治療困難な40代、同年代で、同じ悩み、気持ちや話題も共感できて治療のゴールが必ずしも妊娠・出産とは限らないこと、患者さん自身が自立できるようにとの思いで会を重ねてきました。2017年は、4月から立ち上げた第11期を担当して現在も継続中です。

「この会で気持ちが楽になって参加できて良かった」と患者さんから言ってもらえた時、会が重なるごとに表情さえも穏やかになっていく時が、この会をやってきて良かったと思う瞬間です。

また患者さんの職場や家族との人間関係の悩みを聞いたりする中で、色々知りえなかった事、感じえなかつた事などに感動したりと様々な刺激を受ける機会でもあり、私自身の勉強にもなるので、ありがたいことだなと思っています。

そして2017年、自分なりにすごく頑張ったと思うのが新聞係りです。パソコンが不得意で文字も苦手なため、写真を多く載せることにしました。写真を選択し、カット割、配置などを考えるのがとても大変な作業でした。なかなか良い写真が見つからない時、逆にこれもあれも載せたいとなった時は苦労しました。院長先生から駄目だしが出るだらうなと思ったら意外とOKをもらえた時は驚きと嬉しさを感じました。

これから的一年も、体力気力の持続と目の前の仕事を一つ一つ丁寧に行うことを中心に置いて、患者さん方の治療への不安や葛藤などに理解を深め、安心して治療に取り組めるよう先生や他のスタッフにも橋渡しながらチーム医療の一員として努めていきたい、そして感謝、謙虚さ、笑顔も忘れずに過ごしていくかと思います。

一年を振り返って

研究室・培養室

神田 晶子

寒さも和らぎ、新緑のまぶしい季節になりました。この1年を振り返るにあたり、私自身の振り返りをしてみると、2001年に入職してから18年目に突入していることに気づきました。院長先生、事務長をはじめ、東北大学大学院の有馬隆博教授、諸先輩方、後輩との出会いに恵まれここまでやってこれたのだと感謝しています。月日が経つのはとても早く、一日一日を大切に過ごしていかなければいけないと改めて思います。

さて、この1年の研究室・培養室での主な出来事というと日本産科婦人科学会PGT-A特別臨床研究が本格的に動き出したことと、院長先生が日本卵子学会培地開発委員会の長となり、開発された、日本初の純国産の胚培養液HiGROW OViTが発売になったことだと思います。

まず、PGT-Aでは、最新の遺伝子解析システムを用いて受精卵の異数性を調べる検査方法を日本でも治療法の一つとしてやっていこうではないかということで、何度も会議を重ね、予備試験を行い、近いうちはその結果をまとめてさらに次の段階の試験へ進もうとしています。この検査を待ちわびている患者さんが多いので早く臨床で実現できれば良いと思います。

また、新しい培養液HiGROW OViTに関して、2006年に発足した日本卵子学会培地開発委員会で扶桑薬品工業株式会社とともに長年にわたり研究開発してきました。現在は先行販売期間中で培養成績データを集めてまとめているところです。実際の培養でも従来品と変わらず良好な成績が得られています。

このように、検査と培養の面から新しい方法が生まれました。患者さんの夢実現のため引き続きお手伝いさせていただきたいと思います。

そして、研究室・培養室には2017年の4月から新しく入った職員がいます。現在は生殖補助医療胚培養士を目指して日々精進しているところです。すでに研究室・培養室にとって必要不可欠な存在となっています。私たちも若いパワーに負けないように気を引き締めて前を向いて進んでいきたいと思います。

新たな年もみんなで力を合わせてルーチン業務はもちろん研究にも励みつつ、少しでも患者さんの近くに寄り添える研究室・培養室でありたいと思います。

一年を振り返って

受付

青木 桜

春満開の桜が散り、新緑の季節となりました。眩しい夏の暑さがせまっています。

「生殖医療とは何か」そんな事も知らないまま私はこの世界に足を踏み入れました。そんな私も早いもので入職してから4度目のこの季節を迎えていました。

私自身、4年間過ごした中で、2017年の1年間は、沢山の出会いがあり沢山の経験をさせていただきました。それは、入職前より1つの目標にしていた「生殖医療相談士」の資格取得です。この資格は、医師から受付事務員まで幅広い応募が可能な資格です。3年目となった2017年、私はこの資格を勉強する機会をいただき、5月より毎月1回、東京に行き勉強をさせていただきました。

普段の患者との関わりの中で、自分の対応や声掛けに疑問を持ち始めていた私にとって、とても良い勉強の機会となりました。全国の施設より医師から受付事務員まで30名程度の受講者がおり、主に生殖医療における患者心理・生殖医療の基礎知識を学んでいきました。普段では中々聞くことの出来ない講義内容もあり、とても勉強になりました。講義では、患者役と相談士役に分かれて実際の現場で考えられる状況を作り相談を受けるというロールプレイングや、グループに分かれて現場で起こっている医療事故について、AID（非配偶者間人工授精）について等の意見を出し合い発表するという講義内容もありました。その中で、講義以外の時間でも他の施設より参加されている方達との意見交換などもでき、有意義な時間を過ごせました。年末に行われた認定試験では、無事合格することが出来ました。

資格取得後のこれからは、自分に何ができるのか、どんなサポートをしていけば良いのかなど、考える事も沢山あります。自分に出来る事を1つ1つ考えながら少しづつではありますが邁進していきたいと思います。

昨年より受付は、5人体制から6人体制へと変わり、受付内でのミーティングなどを活発に行い、少し違った雰囲気で仕事が出来ていると思います。患者数も増え毎日が目まぐるしく過ぎていきますが、受付全員で知識共有などを行いながら患者サポートが出来るよう力を合わせて頑張っていきたいと思います。

一年を振り返って

情報処理室

瀬戸口 美和

私がセント・ルカに入職してまもなく1年半が過ぎようとしています。2017年1月に入職してからの1年間は業務内容や知識をひたすら吸収し続ける日々で非常に濃いものでした。情報処理室では2017年4月に、10年間勤められた主任が退職され、大きすぎる穴が空いた上に、1月に私、3月にもう1名の新人が入職しました。情報処理室主任は仕事の穴埋めに加えて新人2名の教育までされており、私ももっとしっかりしなければと申し訳なさと自分の非力さを痛感する日々です。少しでも戦力になれていればと思いますが、道のりはまだまだ険しく長くなりそうです。

この1年間で特に印象に残っている仕事は、4月から6月にかけて取り組んだセント・ルカ産婦人科開院25周年記念誌の編集・校正です。校正の部分では、これまで経験してこなかった細かい文字を1文字ずつ確認するという仕事に、大雑把な性格の私はとても苦労したことを覚えています。当たり前のことでありますが、丁寧に正確に仕事をすることが自分自身の、そしてクリニックの信頼感に繋がると感じることができました。

「写真で振り返るルカの25年」では、院長はじめルカの先輩方の膨大な量の写真を眺めながら、改めて25年という時間の重みと、長い歴史を感じました。そして自分が現在、その歴史の中の一つの歯車としてここにいるのだということを実感しました。

院長が目指す「チーム医療」の中で、情報処理室の自分に一体なにができるのか、なにを求められているのか、なにをすべきかを考え、行動に移せるようになればと思います。

情報処理室の仕事は院長や他部署のサポートなど内部で完結する部分が多数を占めており、直接患者さんに接することはほとんどありません。ただ、自分の仕事が巡り巡って最終的には患者さんに還元されていると信じて仕事に取り組んでいます。

ルカに入職して感じたことは、ここでは様々な機会に恵まれているということです。セント・ルカセミナーでは、普段はお目に掛かれないような著名な先生方と接する機会も多く、緊張することも多々ありますが、その分とても多くのことを学ばせていただいています。ルカにいなければ経験できないことを沢山経験させていただいていると実感しています。

ルカでは仕事面でも人間的にも尊敬する先輩が沢山いらっしゃいます。自分もこのようになりたいと思えるお手本が常にいるという環境なので、先輩方を見様見真似して、良いことをどんどん吸収していきたいと思います。入職し1年が経ったので、これからは自分のことばかりでなく周りの方のために自分にできることを考え、これまで院長はじめルカを支えてくれた先輩方に少しでも追いつけるように、日々邁進していきます。

余談ですが、私は日本海側の港町で育った人間なので「海」には親しみがありますが、「山」に対しては登山客の遭難のニュースなどから、多少恐怖心のようなものを抱いていました。しかし、院長が登山をされた際に各地の山で撮影した写真の整理をしているうちに自然と山に詳しくなり、1年経った今では、由布岳や

くじゅう連山はすぐに判別できるようになりました。山の稜線から撮影された写真など、本当に歩いてこんなに高いところまで登られたのか、と写真を見るたび驚かされます。また、平地では決して見ることのできない美しい景色にも圧倒されるばかりです。

以前は、実家への帰省から大分に戻る九州道の道すがら、大きな山が見えてくると憂鬱な気分になっていましたが、最近では由布岳や鶴見岳が目に入ると、雄大な山に守られているような安心感を得られるまでになりました。小さな部分ですが、少しづつ自分の価値観や視野が広がっていっている気がします。

最後に、「若いうちほど沢山苦労をした方が良い」という言葉をよく聞きますが、これから1年でさらに飛躍できるように、さらに悩み苦しみがむしゃらに、2019年には一皮剥けた人間になれるよう前を向いて進んでいきたいと思います。

一年を振り返って

厨 房

油野 亜由美

この1年を振り返るとまず、2017年は8月に院長先生と受付さんと徳島の阿波踊りに参加させていただきました。「初めて行く徳島県で、あの有名な阿波踊りを体験出来る！なんて贅沢だろう」と思いました。今まであんなに人で溢れている場面に遭遇したことがなかったので驚きました。実際に衣装を借り、徳島大学の皆さんと踊らせていただきました。見ると踊るのとではまた違い、難しかったですが、音と共に掛け声を出しながら踊るのがとても楽しく、素敵な時間でした。また色々な連があり、観客として目の前で見る阿波踊りは迫力があり感動しました。

業務の面では、入院患者さんがいる病室へ食事を持って行く機会が増えました。普段なかなか顔を合わせる機会がないので、足を運ぶことで患者さんの顔色も見えますし、何より、持って行った際に、「ありがとうございます」や「美味しいそう」という言葉を聞くと嬉しくなります。

セント・ルカ産婦人科では、この年報と同じく、年に一度ルカ新聞を発行しています。2017年12月に発行したNo.32の「厨房より」では、作っている煮物のレシピを掲載させていただきました。すると、入院患者さんの退院時にとらせていたいいる食事のアンケートに、ルカ新聞に載せたレシピの感想が書かれていました。その患者さんは「実際に家で作っています」と書かれており、参考にしていただけて嬉しかったです。同時に、「今後も載せて欲しい」と要望を書いてくださっていたので、それに応えられるようにしていきたいと思います。

今後もスキルアップを目指し、皆様のお役に立てるよう知識を取り入れ、お知らせできればと思います。



診療統計

開院から2017年までの成績



開院から2017年までの成績

(1992.6.3～2017.12.31)

当院の患者数

1) 開院 (1992.6.3)～本年 (2017.12.31)までの外来患者数	27,303人
(内訳) 男性	10,073人 (36.9%) (平均年齢34.2才)
正常	5,327人 (52.9%)
異常	4,386人 (43.5%)
未検査・未診断	360人 (3.6%)
女性	17,230人 (63.1%) (平均年齢32.2才)
・拳児希望の女性	13,354人 (77.5%) (平均年齢32.1±4.7才)
・2016年1年間の拳児希望女性	483人 (平均年齢34.3±4.7才)
・妊娠件数	8,614件 (平均年齢32.7±4.4才)
・妊娠に至らなかつた女性	6,139人
2) 妊娠率(患者あたり)	54.0% { (13,354-6,139) / 13,354 }
3) 治療を途中で諦めた女性	5,945人 (44.5%)
A) 諦めざるをえなかつた人(無精子症, 早発閉経, 高齢など)	1,504人 (11.3%)
B) いつの間にか諦めた人	4,441人 (33.3%)
4) 実妊娠率(Aを除く患者あたり)	60.9% { (13,354-6,139) / (13,354-1,504) }
5) 実妊娠率(A,Bを除く患者あたり)	97.4% { (13,354-6,139) / (13,354-5,945) }

妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	4,032例	(46.8%)
IVF-ET(体外受精)	691例	(8.02%)
MF-ET(顕微授精)	1,097例	(12.74%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	2,201例	(25.55%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38例	(0.44%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5例	(0.06%)
ART(生殖補助医療)以外	4,582例	(53.2%)
IUI(選別精子子宮内注入法)	814例	(9.45%)
hMG+hCG, Gn-RHa	980例	(11.38%)
クロミフェン	495例	(5.75%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	877例	(10.18%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	677例	(7.86%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	537例	(6.23%)
腹腔鏡検査および子宮鏡手術	4例	(0.05%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	12例	(0.14%)
リンパ球免疫療法	15例	(0.17%)
その他	171例	(1.98%)
計	8,614例	(100%)

妊娠の転帰

分娩病院へ紹介済	6,145例	(71.34%)
流産	2,127例	(24.69%)
異所性妊娠	217例	(2.52%)
胞状奇胎	14例	(0.16%)
中絶	2例	(0.02%)
不明	109例	(1.27%)
計	8,614例	(100%)

出産結果（分娩病院へ紹介済の6,145例中、妊娠結果が判明している5,800例について）

1) 妊娠結果

満期産	5,070例	(87.41%)
満期産+死産*	6例	(0.10%)
満期産+異所性妊娠*	1例	(0.02%)
満期産+奇形中絶*	1例	(0.02%)
早産	530例	(9.14%)
早産+死産*	10例	(0.17%)
過期産	19例	(0.33%)
死産	60例	(1.03%)
流産	73例	(1.26%)
流産+死産*	1例	(0.02%)
奇形中絶	18例	(0.31%)
人工妊娠中絶	10例	(0.17%)
子宮摘出(病気治療のため)	1例	(0.02%)
計	5,800例	(100%)

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

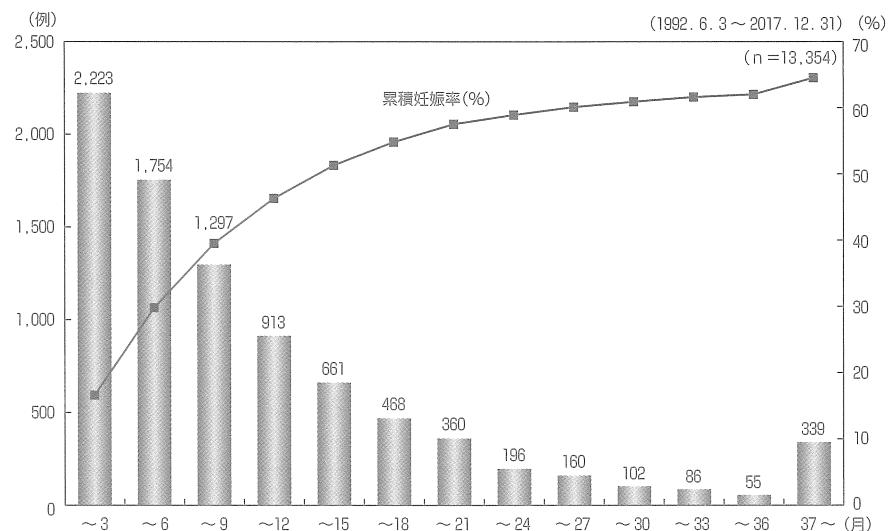
単胎	5,411例	(93.3%)	5,411児
双胎	371例	(6.4%)	742児
品胎	17例	(0.3%)	51児
計	5,799例	(100%)	6,204児

3) 出生児の状態

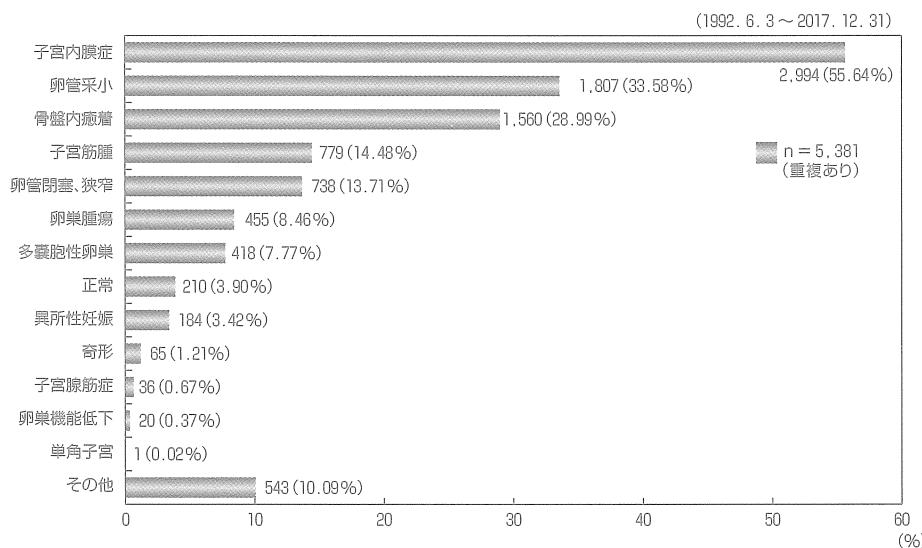
正常	4,908児	(79.1%)
低体重児	890児	(14.3%)
異常(死産等含む)	406児	(6.6%)
(うち奇形を含む主な異常)	(243児)	(3.9%)
計	6,204児	(100%)

(2017/12/31 セント・ルカ産婦人科)

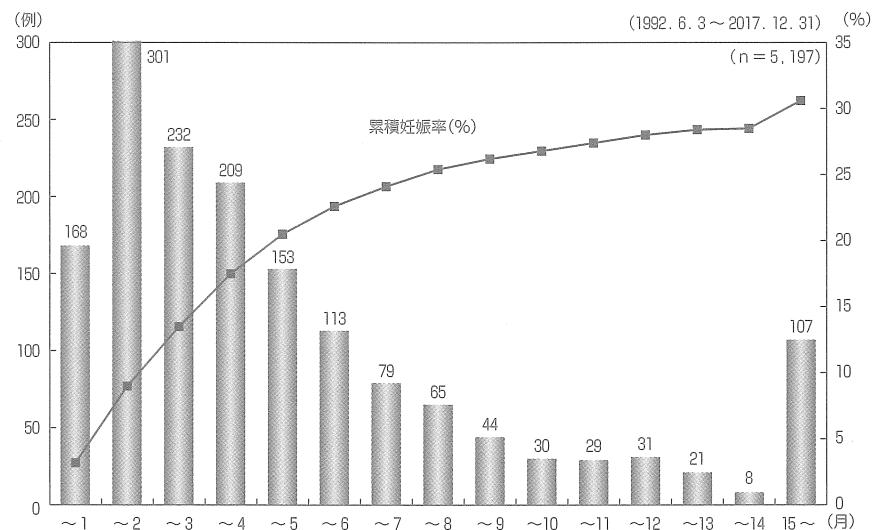
初診後妊娠までの期間



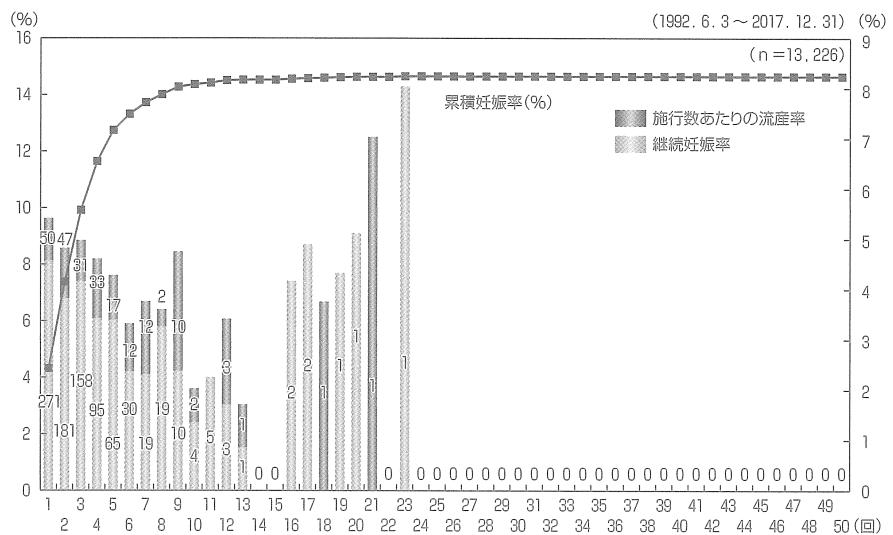
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断



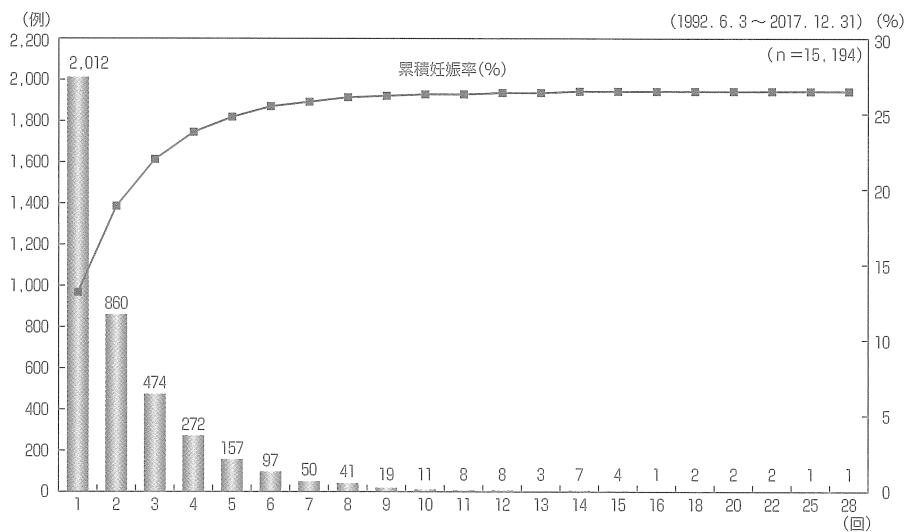
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



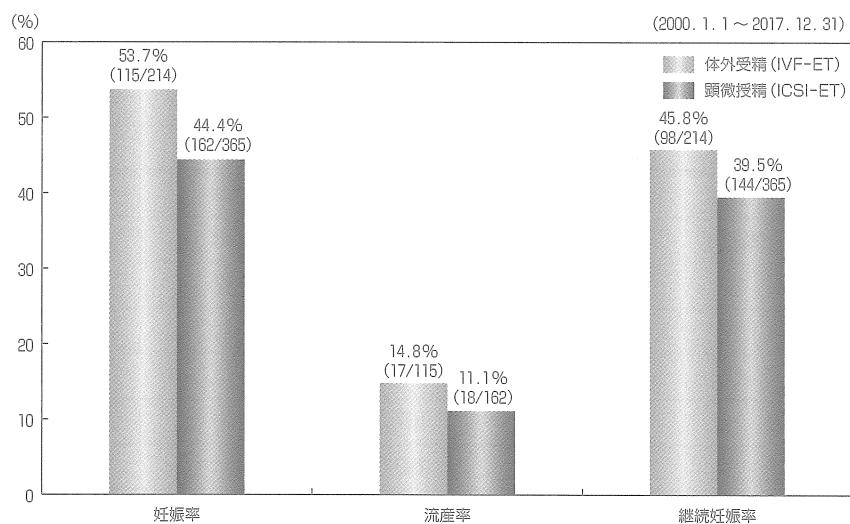
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



ART(生殖補助医療／体外受精・顎微授精・GIFT)による妊娠



35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



妊娠数

(1992.6.3～2017.12.31)

	周 期	1992～2014	2015	2016	2017	合 計
体外受精胚移植 (IVF-ET)	採 卵	3,529	29	16	26	3,600
	移 植	2,507	2	0	4	2,513
	妊 娠	688 (27.4%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (25%)	689 (27.4%)
顯微授精胚移植 (MF-ET)	採 卵	8,050	580	718	735	10,083
	移 植	5,045	123	4	260	5,432
	妊 娠	1,021 (20.2%)	22 (17.9%)	0 (0%)	49 (18.8%)	1,092 (20.1%)
凍結融解胚移植 (ICSI後凍結含む) (CRYO-ET)	凍結融解周期	5,632	490	767	612	7,501
	移 植	5,119	459	714	560	6,852
	妊 娠	1,492 (29.1%)	190 (41.4%)	285 (39.9%)	180 (32.1%)	2,147 (31.3%)
体外成熟培養後 凍結融解胚移植 (IVM-CRYO-ET)	凍結融解周期	174	5	9	0	188
	移 植	144	5	9	0	158
	妊 娠	47 (32.6%)	3 (60.0%)	3 (33.3%)	0 (0%)	53 (33.5%)
配偶子卵管内移植 (GIFT)	採 卵	153	0	0	0	153
	移 植	151	0	0	0	151
	妊 娠	38 (25.2%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	38 (25.2%)
接合子卵管内移植 (ZIFT)	採 卵	44	0	0	0	44
	移 植	44	0	0	0	44
	妊 娠	5 (11.4%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (11.4%)
体外受精胚 卵管内移植 (IVF-TET)	採 卵	22	0	0	0	22
	移 植	21	0	0	0	21
	妊 娠	2 (9.5%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	2 (9.5%)
顯微授精胚 卵管内移植 (MF-TET)	採 卵	18	0	0	0	18
	移 植	18	0	0	0	18
	妊 娠	5 (27.8%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	5 (27.8%)
凍結融解胚 卵管内移植 (CRYO-TET)	凍結融解周期	3	0	0	0	3
	移 植	3	0	0	0	3
	妊 娠	1 (33.3%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (33.3%)
体外成熟培養 体外受精胚移植 (IVM-IVF-ET)	採 卵	8	0	0	0	8
	移 植	0	0	0	0	0
	妊 娠	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
小 計	採 卵	11,824	609	734	761	13,928
	凍結融解周期	5,809	495	776	612	7,692
	移 植	13,052	589	727	824	15,192
	妊 娠	3,299 (25.3%)	215 (36.5%)	288 (39.6%)	230 (27.9%)	4,032 (26.5%)

ART*以外の妊娠数	4,107	167	146	162	4,582
妊娠総数	7,406	382	434	392	8,614

* 生殖補助医療

採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます



診療統計

2017年一年間の成績



2017年一年間の成績

外来患者数

(2017.1.1～2017.12.31)

	午前診療	河邊外来	夕方診療	合計
1月	1,329	255	325	1,909
2月	1,327	269	366	1,962
3月	1,383	284	345	2,012
4月	1,470	239	311	2,020
5月	1,407	285	266	1,958
6月	1,285	329	309	1,923
7月	1,328	333	233	1,894
8月	1,313	293	318	1,924
9月	1,273	288	227	1,788
10月	1,217	318	291	1,826
11月	1,264	320	257	1,841
12月	1,226	165	234	1,625
合計	15,822	3,378	3,482	22,682

初診患者数

(2017.1.1～2017.12.31)

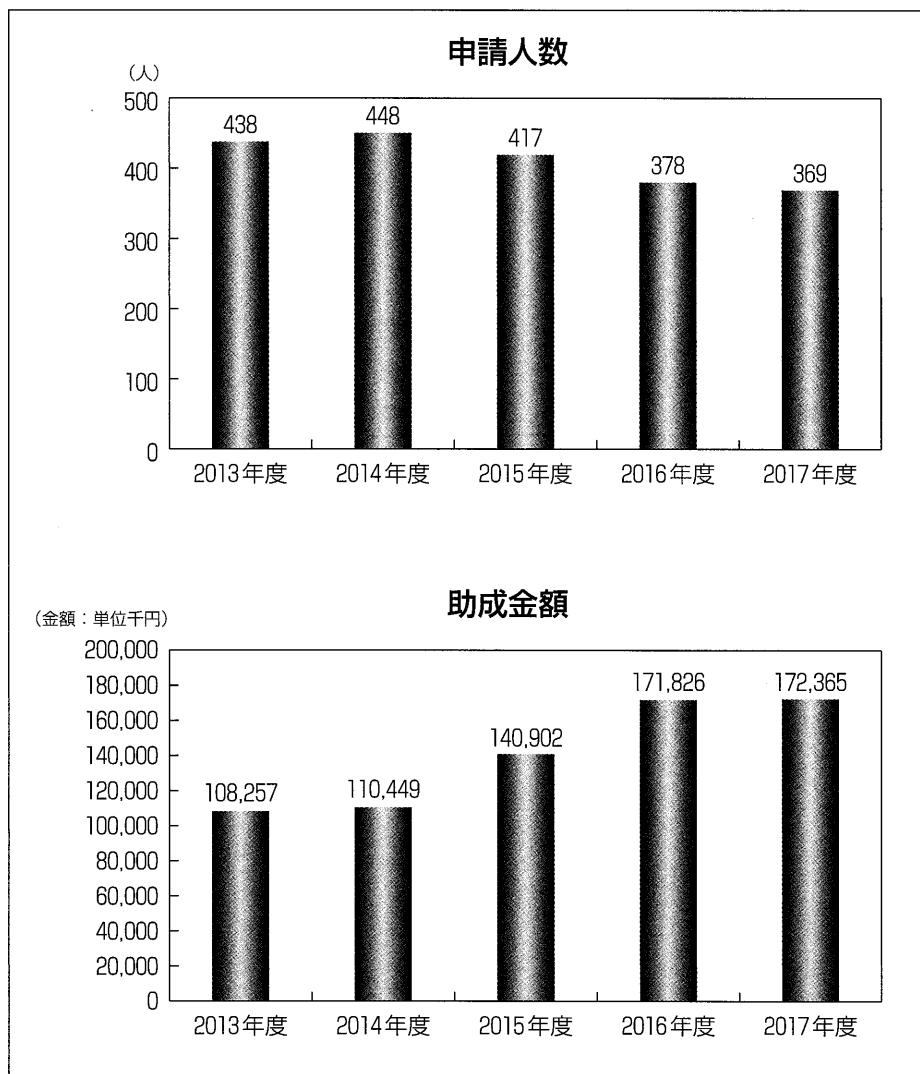
	午前診療	河邊外来	合計
1月	49	7	56
2月	40	7	47
3月	45	4	49
4月	51	8	59
5月	42	10	52
6月	42	13	55
7月	49	11	60
8月	53	2	55
9月	54	13	67
10月	48	5	53
11月	47	10	57
12月	37	7	44
合計	557	97	654

不妊治療費助成金申請内訳

2017年度

	申請人数(人)	申請回数(回)	助成金額(円)
大分県	131	239	66,277,700
大分市	207	388	101,424,800
他 県	7	10	1,400,000
市町村	24	29	3,262,900
合 計	369	666	172,365,400

過去5年分(2013年度～2017年度)のまとめ



2017年度は2016年度に比べ、申請人数と申請回数が減っているが、助成金額は増えている。2015年度より、大分県独自の助成金上乗せ(15万円)が開始され、1回の体外受精につき30万円(採卵を伴う凍結胚移植の場合は24万円が上乗せされ39万円)と増額されたことにより増えたのではないかと考えられる。

妊娠の内訳

期間(2017.1.1～2017.12.31)

妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	230例	(58.7%)
IVF-ET(体外受精)	1例	(0.3%)
MF-ET(顕微授精)	49例	(12.5%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	180例	(45.9%)
ART(生殖補助医療)以外	162例	(41.3%)
IUI(選別精子子宮内注入法)	4例	(1.0%)
hMG+hCG, Gn-RHa	51例	(13.0%)
クロミフェン	2例	(0.5%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	28例	(7.1%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	41例	(10.5%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	28例	(7.1%)
腹腔鏡検査および子宮鏡手術	2例	(0.5%)
その他	6例	(1.6%)
計	392例	(100%)

妊娠の転帰

分娩病院へ紹介済	276例	(70.4%)
流産	111例	(28.3%)
異所性妊娠	5例	(1.3%)
計	392例	(100%)

※出産結果は全ての妊娠結果が判明している2016年の妊娠を対象とする

出産結果 (2016年に妊娠し分娩病院へ紹介済の289例について)

期間 (2016.1.1～2016.12.31)

1) 妊娠結果

満期産	251例	(86.9%)
満期産 + 死産*	2例	(0.7%)
早 産	20例	(7.0%)
早産 + 死産*	1例	(0.3%)
過期産	1例	(0.3%)
死 産	1例	(0.3%)
流 産	8例	(2.8%)
奇形中絶	1例	(0.3%)
人工妊娠中絶	4例	(1.4%)
計	289例	(100%)

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

単胎	278例	(96.2%)	278児
双胎	11例	(3.8%)	22児
計	289例	(100%)	300児

3) 出生児の状態

正常	246児	(82.0%)
低体重児	23児	(7.7%)
異常(死産等含む)	31児	(10.3%)
(うち奇形を含む主な異常)	(14児)	(4.7%)
計	300児	(100%)

異常児の詳細 (2016年の妊娠で出生した300児のなかの14児について)

主な異常 14児	14児／300児 (4.7%)		うち ART*児 : 12児／185児 (6.5%) ART以外児 : 2児／115児 (1.7%)		
	ART	ART以外	ART	ART以外	
21-Trisomy	1児	1児	末梢性肺動脈狭窄	1児	0児
胎兒脳膜瘤	1児	0児	VACTERL 連合	1児	0児
心室中隔欠損症	1児	0児	ポーランド症候群	1児	0児
心房中隔欠損症	1児	0児	腎低形成	0児	1児
動脈管開存症	2児	0児	十二指腸狭窄症	1児	0児
純型肺動脈閉鎖症	1児	0児	鼠径ヘルニア	1児	0児

*生殖補助医療

手術・入院数

(2017.1.1～2017.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
--	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----

手術入院

腹腔鏡手術	11	16	8	17	16	16	8	15	18	11	22	15	173
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	0	1	1	2	0	1	1	2	1	1	0	1	11
子宮筋腫核出術(開腹)	3	2	1	3	1	2	1	0	1	3	2	2	21
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	4
経頸管子宮筋腫・内膜ポリープ切除術(TCR)	4	0	3	3	2	4	2	1	2	4	3	1	29
子宮内容除去術(流産のため)	12	5	7	4	7	13	7	7	7	13	7	13	102
卵管鏡下卵管形成術	3	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	8
子宮内膜搔爬術	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	5
卵胞穿刺術	2	1	1	1	1	3	1	2	1	3	1	0	17
開腹手術(子宮全摘出術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	2	3	1	1	0	2	0	0	0	1	0	1	11
合 計	38	29	23	31	28	42	21	28	32	38	37	35	382

安静入院

卵巣過剰刺激症候群	1	0	1	2	2	1	1	2	2	0	1	0	13
切迫流産安静	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
その他	0	0	1	0	1	1	1	0	2	2	2	0	10
合 計	1	1	2	3	3	3	2	2	4	2	3	0	26

体外受精入院

採卵	51	75	68	70	59	66	62	57	78	65	65	58	774
胚移植	4	20	25	21	27	23	27	24	22	27	26	18	264
凍結胚移植	52	29	59	37	56	45	58	43	47	45	49	44	564
合 計	107	124	152	128	142	134	147	124	147	137	140	120	1,602

入院総計	146	154	177	162	173	179	170	154	183	177	180	155	2,010
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-------

ART(生殖補助医療)による妊娠

(2017.1.1～2017.12.31)

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり %)	妊娠周期数 (移植あたり %)	流産周期数 (妊娠あたり %)
IVF-ET	26	4 (15.4%)	1 (25.0%)	0 (0%)
MF-ET (男性因子以外も含む)	737	260 (35.3%)	49 (18.8%)	18 (36.7%)
(ICSI)	698	260 (37.2%)	49 (18.8%)	18 (36.7%)
CRYO-ET	612	560 (91.5%)	180 (32.1%)	66 (36.7%)
合 計	1,375	824 (59.9%)	230 (27.9%)	84 (36.5%)

ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(2016.1.1～2016.12.31)

2016年に妊娠し、2017年12月31日までに妊娠結果が判明している179周期に限る				
妊娠結果	満期産	151周期 (84.3 %)		
	満期産、死産*	1周期 (0.6 %)		
	早産	16周期 (8.9 %)		
	死産	1周期 (0.6 %)		
	流産	7周期 (3.9 %)		
	奇形中絶	1周期 (0.6 %)		
	人工妊娠中絶	2周期 (1.1 %)		
多胎妊娠について	185児	単胎	173例 (96.6 %)	173児
		双胎	6例 (3.4 %)	12児
低体重児	15児 (8.1 %)			
異常児	24児 (13.0%)	うち奇形を含む主な異常	12児 (6.5%)	

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

セント・ルカ産婦人科

一年のあゆみ

セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ

(2017.1.1～2017.12.31)

学会発表	40題
院長	4
医局	1
研究室・培養室	20
看護部	12
心理専門相談室	3
講演	7題
院長	7
学会・講演会・研究会参加	36回
研修会・講習会参加	22回
著書(共著)	2編
主催講演	6回
第24回セント・ルカセミナー	1 総参加人数 73名
第5回大分性教育セミナー	1 総参加人数 77名
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	4 総参加人数 346名
不妊カウンセラー活動	27回
新患教室	7 総参加人数 486名
体外受精教室	12 総参加人数 661名
ガーネットサークル	3 総参加人数 13名
オリーブの会(第11期)	5 総参加人数 31名

行事一覧

2017

1. 4	新年会(セント・ルカ産婦人科 多目的室)
1. 4	新職員 濑戸口美和(情報処理室)
1. 7	第101回 新患教室 参加者47名 参加<瀬戸口、川内、濱、後藤厚、大津、土谷、三重野、戸高、手島、足立、稗田>
1.10	第214回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
1.14	第233回 体外受精教室 参加者48名 参加<瀬戸口、川内、濱、後藤厚、佐藤、熊迫、土谷、三重野、北田、松土、稗田>
1.14	第21回 日本生殖内分泌学会学術集会(大阪) 参加<後藤香> 発表:「子宮内膜間質細胞の脱落膜化におけるプロテアーゼ活性化型受容体(PAR)-1を介した 細胞機能調節の変化」(後藤香里)
1.16	新職員 古川綾子(看護部)
1.18	第232回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<甲斐、河邊、院長>
1.21	第38回 日本エンドメトリオーシス学会(東京) 参加<手島、越光、院長> ワークショップ講演:「腹腔鏡下アルコール固定術」(院長)
1.23	おおいたインフォメーションハウス「大分県の専門医に聞く! 体のこと心のこと~気になる症例を紹介~」取材
1.28	第8回 遺伝カウンセリング・アドバンストセミナー(東京) 参加<院長>
1.31	日本医師会 健康スポーツ医認定(河邊史子)
2. 2	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
2. 4	第67回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者67名 講師<越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生> 参加<瀬戸口、安部、川内、青木、越名、小池、土谷、足立、後藤裕、稗田>
2. 7	第215回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
2.15	大分合同新聞記者 取材の為ご来院
2.17	体温表電子化に向けた打ち合わせ 是永迪夫先生ご来院
2.18	日本生殖心理学会役員会(愛知) 参加<院長>
2.18	日本生殖心理学会 生殖心理カウンセラー 第8回 継続研修会(愛知) 参加<稗田>
2.19	第14回 日本生殖心理学会・学術集会(愛知) 参加<坂本、稗田、院長> 発表:「流産経験のある夫婦の会について」(坂本順子) 「配偶子凍結を行った未成年患者が成人へ達した時の親の気持ち」(稗田真由美)
2.24	日本産科婦人科学会 PGS 実務者会議(東京) 参加<城戸、大津、院長>
2.25	第234回 体外受精教室 参加者68名 参加<瀬戸口、川内、青木、後藤厚、佐藤、後藤香、土谷、松土、稗田>
2.26	第2回 JISART 研究倫理に関する講習会(東京) 参加<大津、稗田、院長>
2.28	第122回 大分県周産期研究会(大分) 参加<瀬戸口、山路、安部、油野、川内、青木、濱、大城、越名、小池、佐藤、城戸、後藤香、熊迫、 大津、土谷、戸高、坂本、北田、亀井、赤嶺、手島、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長> 発表:「がん患者のための妊娠性温存治療」(熊迫陽子) 「当院で妊娠し生まれた児の健康調査」(甲斐由布子)
3. 1	新職員 秋吉裕美(看護部)
3. 1	平成28年度 大分県医師会 学術講演会 参加<甲斐、院長>
3. 4	平成28年度 日本卵子学会 第7回 理事会(東京) 参加<院長>

行事一覧

3. 4	日本受精着床学会 第13回 ART 生涯研修コース(東京) 参加<小池、熊迫 実技担当講師：熊迫陽子
3. 5	がんと生殖に関するシンポジウム2017(東京) 参加<小池、熊迫、院長>
3. 6	新職員 後藤彩美(情報処理室)、穴井千暁(看護部)
3. 7	第216回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.10	日本受精着床学会 平成28年度 第3回常務理事会(東京) 参加<院長>
3.11	第102回 新患教室 参加者78名 参加<後藤彩、瀬戸口、川内、青木、後藤厚、後藤香、土谷、穴井、秋吉、古川、松土、足立、稗田>
3.13	株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』夏号(Vol.34)取材
3.18	日本生殖再生医学会役員会(東京) 参加<院長>
3.18	日本 A-PART 役員会(東京) 参加<院長>
	日本 A-PART 学術講演会2017(東京) 参加<小池、戸高、後藤裕、稗田、院長>
3.19	シンポジウム講演：「レテウム腔用坐剤」(院長) 「日本 A-PART 臨床研究年次報告 & 加盟施設アンケート報告 がん患者卵子保存の現状」(院長) 発表：「当院の新患教室のアンケートから現在の患者の動向を比較する」(戸高里美) 「配偶子凍結を行った未成年患者が成人へ達した時の親の気持ち」(稗田真由美)
3.19	第12回 日本生殖再生医学会(東京) 参加<後藤香、大津、院長> 発表：「子宮内膜間質細胞の脱落膜化におけるプロテアーゼ活性化型受容体(PAR)-1を介した 妊娠維持に向けた細胞機能調節の変化」(後藤香里) 「ヒト胚の動的変化時間と染色体数の異常の関係」(大津英子)
3.25	第235回 体外受精教室 参加者52名 参加<後藤彩、瀬戸口、川内、越名、後藤厚、佐藤、土谷、穴井、秋吉、古川、手島、稗田>
3.25	第68回 ガーネットサークル OG 1名、参加者 4名
3.28	安全管理研修：手指衛生の基本(担当：看護部)
3.28	第26回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員長：野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) 倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、緒方俊一先生(わさだかかりつけ 医院泌尿器科クリニック 院長)、河野浩先生(河野・千野法律事務所 弁護士)、後藤裕子(セ ント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園 園長) (五十音順)
4. 1	新職員 橘るい(研究室・培養室)、秦岡智美(メディカルアシスタント)、田代仁美(看護部)
4. 1	第103回 新患教室 参加者50名 参加<後藤彩、瀬戸口、大城、橘、城戸、秦岡、土谷、田代、穴井、秋吉、古川、坂本、松土>
4. 1	セント・ルカ産婦人科 & メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
4. 1	日本生殖医学会 生殖医療専門医認定(河邊史子)
4. 3	体温表システム稼働
4. 5	「AIDで生まれた人の出自を知る権利を保障する」勉強会(東京) 参加<院長>
4. 6	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長>
4. 7	第45回 大分市医師会産婦人科一内分泌・不妊・代謝一懇話会(大分) 参加<後藤彩、瀬戸口、山路、安部、矢野、川内、青木、濱、大城、越名、橘、小池、佐藤、後藤香、長木、 大津、秦岡、土谷、田代、穴井、秋吉、戸高、坂本、北田、赤嶺、手島、松土、越光、後藤裕、稗田、 甲斐、河邊、院長> 「オキシトシンの多彩な生理作用」(大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学 教授 木村正先生)

4. 8	第13回 九州産婦人科内視鏡手術研究会(福岡) 参加〈戸高、越光、甲斐、河邊、院長〉 発表：「当院における腹腔鏡手術の現状」(院長)
4. 9	第74回 九州・沖縄生殖医学会(福岡) 参加〈小池、大津、戸高、手島、越光、後藤裕、甲斐、河邊、院長〉 発表：「マウスを用いたシクロフォスファミド(CPA)投与における妊娠能回復への影響」(小池恵) 「ヒト胚の動的変化時間と染色体数的異常の関係」(大津英子) 「当院の新患教室のアンケートから現在の患者の動向を比較する」(戸高里美) 「不妊治療終結における患者サポートに関する検討 ～『ご夫婦2人の人生を選択した、元患者さんのお話』を開催して～」(手島しおり)
4.11	第10回 PGSに関する小委員会(東京) 参加〈院長〉
4.14	第69回 日本産科婦人科学会(広島) 参加〈甲斐、院長〉
4.15	第1回 第11期オリーブの会 参加者 9名
4.16	JAPCO (Japan PGD Consortium) 準備会(広島) 参加〈院長〉
4.18	第217回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
4.22	第236回 体外受精教室 参加者71名 参加〈後藤彩、瀬戸口、川内、大城、橘、佐藤、後藤香、秦岡、土谷、田代、穴井、秋吉、龜井、後藤裕、稗田〉
4.23	JISART 臨床成績入力・運用に関する疑問を解消する会(大阪) 参加〈安部〉
4.25	平成29年度大分県母性衛生学会 第1回 打ち合わせ会(大分) 参加〈越光、後藤裕〉
5. 9	第218回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.10	第234回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加〈河邊〉
5.13	ART 女性クリニック新本館落成祝賀会・講演会(熊本) 参加〈院長〉 講演：「私の考える今までとこれからとの生殖医療－開業25年にあたって」(院長)
5.14	JISART 施設認定審査 審査員〈稗田〉
5.16	マネジメントレビュー
5.18	大分県立看護科学大学(大分)講義 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、川内、橘、秦岡、土谷、穴井〉 講義：「不妊症講座」(院長)
5.20	第68回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 103名 講師〈越名(受付)、後藤裕(看護師長)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生〉 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、川内、濱、越名、橘、秦岡、穴井、坂本、後藤裕、稗田〉
5.25	株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』秋号(Vol.35) 取材
5.27	第237回 体外受精教室 参加者 43名 参加〈後藤彩、瀬戸口、油野、越名、後藤厚、橘、小池、佐藤、後藤香、秦岡、土谷、穴井、龜井、稗田〉
5.27	日本生殖心理学会 2017年度(第11期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加〈青木〉
5.28	あすか製薬主催 ルテウム腔用坐剤に関するアドバイザリー会議(東京) 参加〈院長〉
5.30	第3回 里親・養子縁組の説明会～治療後に里親・縁組をされた方のお話～
6. 2	新職員 渡邊美智代(看護部)
6. 2	第58回 日本卵子学会学術集会(沖縄) 参加〈小池、大津、院長〉 発表：「マウスを用いた妊娠能回復に対するシクロフォスファミド(CPA)投与の影響」(小池恵) 「ヒト胚の動的変化時間と染色体数的異常の関係」(大津英子)
6. 3	日本卵子学会 第17回 培地開発委員会(沖縄) 参加〈院長〉
6. 3	第2回 第11期オリーブの会 参加者 6名

行事一覧

6. 9	第235回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、油野、川内、青木、濱、大城、越名、橘、神田、後藤香、長木、大津、秦岡、土谷、渡邊、穴井、坂本、北田、亀井、赤嶺、手島、足立、松元、越光、後藤裕、甲斐、河邊、院長〉 座長：特別講演「不妊症治療の現状と今後の展望—内膜症合併不妊を含めて—」(院長)
6. 10	第104回 新患教室 参加者76名 参加〈後藤彩、瀬戸口、川内、濱、橘、神田、秦岡、土谷、渡邊、穴井、戸高、松土、稗田〉
6. 10	第10回 JISART 医療事務教育セミナー(愛知) 参加〈大城〉
6. 10	第10回 JISART ラボ教育セミナー(愛知) 参加〈熊迫〉
6. 10	第14回 JISART 看護教育セミナー(愛知) 参加〈手島〉
6. 11	第15回 JISART シンポジウム(愛知) 参加〈大城、手島、熊迫、院長〉 講演：「第2代執行部としてJISARTの目指したこと」(院長)
6. 13	第219回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
6. 13	院内全体研修：接遇(担当：受付)
6. 17	第238回 体外受精教室 参加者41名 参加〈川内、濱、橘、神田、後藤香、秦岡、土谷、渡邊、穴井、手島、稗田〉
6. 18	第24回 セント・ルカセミナー(大分オアシスタワーホテル) 講演1：「輝く女性が日本の危機を救う」 吉村恭典先生〈内閣官房参与／慶應義塾大学 名誉教授〉 座長：宮川勇生先生〈大分大学 名誉教授〉 講演2：「北海道での着床前診断開始で見えてきたこと」 遠藤俊明先生〈札幌医科大学医学部産婦人科学講座 非常勤講師〉 座長：西山幸男先生〈西山産婦人科 理事長〉 講演3：「生殖発生医学における倫理と哲学」 森崇英先生〈京都大学 名誉教授／NPO法人 生殖発生医学アカデミア 理事長〉 座長：檜原久司先生〈大分大学医学部産科婦人科学講座 教授〉 ランチョンセミナー：「次世代シーケンサー(NGS)による技術革新：PGSと子宮内菌叢解析」 桜庭喜行先生〈Varinios 株式会社 代表取締役〉 座長：原鐵晃先生〈県立広島病院生殖医療科 主任部長〉 講演4：「女性からみた出生前診断～これまでの流れを取材して感じたこと～」 河合蘭先生〈出産ジャーナリスト〉 座長：河野康志先生〈大分大学医学部産科婦人科学講座 准教授〉 講演5：「次世代型 PGD／PGS の現状と問題点」 倉橋浩樹先生〈藤田保健衛生大学総合医科学研究所分子遺伝学研究部門 教授〉 座長：田中温先生〈セントマザー産婦人科医院 院長〉 総合討論座長：吉村恭典先生〈内閣官房参与／慶應義塾大学 名誉教授〉
6. 19	平成29年度 大分大学医学科 6年次生産婦人科実習 伊藤葵さん(～7月14日まで)
6. 20	院内全体研修：避難訓練(担当：受付)
6. 23	第41回 日本遺伝力ウンセリング学会学術集会(大阪) 参加〈院長〉
6. 23	第236回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加〈甲斐、河邊〉
6. 25	第5回 大分性教育セミナー(ホルトホール大分) 講演1：「生も性も覚悟をもって～自分よりも大切な人ができるまで～」 金子法子先生〈針間産婦人科 院長〉 座長：谷口久枝先生〈やぐちレディースクリニック 院長〉 講演2：「自分をたいせつに 他のひとをもっとたいせつに」 松隈孝則先生〈松隈産婦人科クリニック 院長〉 座長：貞永明美先生〈貞永産婦人科医院 院長〉
6. 27	第123回 大分県周産期研究会(大分) 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、矢野、川内、青木、濱、大城、越名、橘、小池、神田、熊迫、大津、秦岡、土谷、渡邊、穴井、戸高、坂本、北田、亀井、斎高、赤嶺、松土、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長〉 発表：「ヒト胚の動的変化時間と染色体数の異常の関係」(大津英子) 「当院の新患教室のアンケートから現在の患者の動向を比較する」(戸高里美)

7. 1	第69回 ガーネットサークル OG 1名、参加者 3名
7. 1	日本生殖心理学会 2017年度(第11期) 生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<青木>
7. 3	33rd Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (Geneva) 参加<矢野、手島、事務長、院長>
7. 4	第14回 大分県母性衛生学会実行委員会(大分) 参加<越光、後藤裕>
7. 9	平成29年度 大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会総会(大分) 参加<甲斐、河邊>
7.11	第220回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
7.15	第8回 遺伝カウンセリング研修会(京都) 参加<院長>
7.18	AMED 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 苛原班 平成29年度 班会議(東京) 参加<院長>
7.19	日本受精着床学会常務理事会(鳥取) 参加<院長>
7.20	第35回 日本受精着床学会総会・学術講演会(鳥取) 参加<小池、城戸、戸高、手島、後藤裕、院長> 座長:シンポジウム「生殖医療と生まれ来る子供達の未来」(院長) 発表:「マウスを用いたシクロフォスファミド(CPA)投与による妊娠能回復への影響」(小池恵) 「ヒト胚盤胞の栄養外胚葉と内細胞塊の染色体構成についての検討」(城戸京子) (世界体外受精会議記念賞【臨床】受賞) 「当院の新患教室のアンケートから現在の患者の動向を比較する」(戸高里美) 「不妊治療終結における患者サポートに関する検討 ～『ご夫婦2人の人生を選択した、元患者さんのお話』を開催して～」(手島しおり)
7.21	第1回 JAPCO (Japan PGD Consortium)会議(鳥取) 参加<城戸、院長>
7.21	第237回 大分市医師会産婦人科臨床検討会(大分) 参加<甲斐、河邊>
7.22	第239回 体外受精教室 参加者71名 参加<後藤彩、瀬戸口、油野、川内、青木、後藤厚、橘、神田、後藤香、秦岡、土谷、渡邊、越光、稗田>
7.28	PGT-A 実務者会議(東京) 参加<城戸、大津、院長>
7.29	第3回 第11期オリーブの会 参加者 5名
7.29	日本生殖心理学会 2017年度(第11期) 生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<青木>
8. 3	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加<院長> 発表:「着床前スクリーニングについて」(院長)
8. 5	第69回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者90名 講師<越名(受付)、川村(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 緒方俊一先生> 参加<後藤彩、瀬戸口、安部、川内、越名、橘、大津、秦岡、土谷、渡邊、坂本、川村、後藤裕、稗田>
8. 7	藤田保健衛生大学 NGS 研修(愛知) 参加<城戸、大津>
8. 8	第221回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
8.12	第240回 体外受精教室 参加者39名 参加<後藤彩、瀬戸口、川内、大城、橘、神田、後藤香、熊迫、秦岡、土谷、渡邊、越光、稗田>
8.14	徳島大学ぎねこ連にて阿波踊り(徳島) 参加<油野、青木、院長>
8.18	日本卵子学会 HiGROW OVIT 販売およびデータ収集についての会議(東京) 参加<院長>
8.20	第18回 東北ART研究会(宮城) 参加<院長> 講演:「ARTにおける新しい黄体補充法について」(院長)
8.22	安全管理研修:B型肝炎について(担当:看護部)
8.26	第24回 臨床細胞遺伝学セミナー(東京) 参加<神田、城戸、院長>
8.27	日本生殖医学会 2017年度 第1回 生殖医療従事者講習会(大阪) 参加<甲斐>

行事一覧

8.29	株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』冬号 (Vol.36) 取材
8.30	HBOC-Scientific Exchange Meeting in Oita (大分) 参加〈熊迫、甲斐、河邊〉
9. 1	新職員 平田春菜(受付)、矢野彩瑛子(メディカルアシスタント)
9. 1	第27回 遺伝医学セミナー(千葉) 参加〈院長〉
9. 3	第16回 生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加〈小池、熊迫、院長〉 座長：「がん・生殖医療の現状と今後の展望～卵子・卵巣凍結を含めて～」(院長) 発表：「マウスを用いたシクロフォスファミド(CPA)投与回数による妊娠能回復への影響」(小池恵) (学術奨励賞受賞) 「Strict criteria 精子形態評価からみた rescue ICSI の有用性についての検討」(熊迫陽子)
9. 5	第222回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
9. 7	福岡臨床遺伝研究会(福岡) 参加〈院長〉 症例紹介：「ターナー症候群 当院の3症例」(院長)
9. 8	第57回 日本産科婦人科内視鏡学会／18th APAGE Annual Congress 2017(岡山) 参加〈長木、越光、院長〉 発表：「当院における腹腔鏡手術の現状」(院長)
9. 9	第4回 第11期オリーブの会 参加者4名
9. 9	第60回 JISART 理事会(東京) 参加〈院長〉
9. 9	日本生殖心理学会 2017年度(第11期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加〈青木〉
9.10	第15回 日本生殖看護学会学術集会(新潟) 参加〈手島〉
9.16	第105回新患教室 参加者97名 参加〈瀬戸口、平田、川内、青木、橘、後藤香、矢野彩、秦岡、土谷、渡邊、松土、稗田〉
9.19	第27回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員長：野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) 倫理委員：緒方俊一先生(わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック 院長)、河野浩先生(河野・千野法律事務所 弁護士)、後藤裕子(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、近藤邦子先生(別府平和園 園長) (五十音順)
9.30	第241回 体外受精教室 参加者87名 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、川内、橘、神田、秦岡、渡邊〉
10. 7	第106回 新患教室 参加者75名 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、大城、橘、長木、秦岡、土谷、戸高、松土、稗田〉
10.10	院内全体研修：栄養学について(担当：厨房)
10.13	第8回 大分産婦人科手術研究会(大分) 参加〈甲斐、河邊、院長〉
10.14	第70回 ガーネットサークル OG1名、参加者6名
10.14	日本生殖心理学会 2017年度(第11期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加〈青木〉
10.20	第46回 大分市医師会産婦人科—内分泌・不妊・代謝—懇話会(大分) 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、油野、平田、川内、青木、濱、大城、越名、橘、後藤香、城戸、熊迫、秦岡、土谷、渡邊、戸高、坂本、北田、赤嶺、手島、足立、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長〉 「卵胞発育と排卵 自然周期体外受精からみえてきた新しい理解」 (千葉大学大学院医学研究院生殖医学 教授 生水真紀夫先生)
10.21	第242回 体外受精教室 参加者35名 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、川内、濱、橘、後藤香、熊迫、秦岡、土谷、手島、稗田〉
10.24	第124回 大分県周産期研究会(大分) 参加〈後藤彩、瀬戸口、安部、矢野、平田、川内、青木、濱、大城、越名、橘、城戸、長木、熊迫、大津、秦岡、土谷、渡邊、坂本、北田、亀井、赤嶺、手島、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長〉 発表：「当院の着床前診断の経験」(大津英子) 「不妊治療終結における患者サポートに関する検討 ～『ご夫婦2人の人生を選択した、元患者さんのお話』を開催して～」(手島しおり)

10.28	第14回 日本周産期メンタルヘルス学会学術集会(大分) 参加〈坂本、稗田〉 発表:「不妊治療中の流産経験を共有するためのグループワークを開催して」(坂本順子) 「がん治療のため配偶子凍結を行った未成年患者が成人へ達した時の親の気持ち」(稗田真由美)
10.30	American Society for Reproductive Medicine 2017 Scientific Congress & Expo (San Antonio) 参加〈長木、越光、事務長、院長〉 発表:「Impact of pre and post laparoscopic ovarian treatment on ovarian reserve with infertile women : prospective study」(長木美幸)
11. 4	第70回 『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者86名 講師〈越名(受付)、川村(看護部)、稗田(臨床心理士)、院長、わさだかかりつけ医院泌尿器科クリニック緒方俊一先生〉 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、川内、越名、橘、城戸、秦岡、渡邊、坂本、川村、後藤裕、稗田〉
11. 4	日本生殖心理学会 2017年度(第11期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加〈青木〉
11. 5	第4回 西日本生殖看護グループ勉強会(福岡) 参加〈手島〉
11. 6	新職員 宮田美紀(看護部)
11. 7	院内全体研修:心肺蘇生法(担当:看護部)
11.11	第243回 体外受精教室 参加者49名 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、川内、青木、橘、神田、秦岡、宮田、越光、稗田〉
11.12	第14回 大分県母性衛生学会役員会(大分) 参加〈後藤裕、院長〉
11.12	第14回 大分県母性衛生学会総会・学術集会(大分) 学術集会担当:セント・ルカ産婦人科 参加〈後藤彩、安部、秦岡、土谷、戸高、坂本、北田、手島、川村、松土、松元、越光、後藤裕、稗田、甲斐、河邊、院長〉 発表:「不妊治療終結における患者サポートに関する検討 ～『ご夫婦2人の人生を選択した、元患者さんのお話』を開催して～」(手島しおり)
11.14	安全管理研修:パソコンのセキュリティについて(担当:情報処理室)
11.14	第4回 里親・養子縁組の説明会～治療を経て里親・縁組をされた方のお話～
11.16	第62回 日本生殖医学会学術講演会・総会(山口) 参加〈後藤香、大津、戸高、手島、甲斐、河邊、院長〉 シンポジウム講演:「ART児の長期予後調査～厚生労働科学・AMED研究(吉村班・苛原班) ART出生児予後調査結果より～」(院長) 発表:「脱落膜化子宮内膜間質細胞のプロテアーゼ活性化型受容体(PAR)-1を介した細胞機能調節」 (後藤香里) 「染色体トリソミーは、胞胚腔形成時間が早くなり、モノソミーは遅くなる」(大津英子) 「当院の新患教室のアンケートから現在の患者の動向を比較する」(戸高里美) 「不妊治療終結における患者サポートに関する検討 ～『ご夫婦2人の人生を選択した、元患者さんのお話』を開催して～」(手島しおり)
11.16	日本人類遺伝学会 第62回大会(兵庫) 参加〈城戸、院長〉
11.18	第5回 第11期オリーブの会 参加者6名
11.21	株式会社ジネコ フリーマガジン『ジネコ』春号(Vol.37)取材
11.25	第61回 JISART 理事会(大阪) 参加〈院長〉
12. 2	うつのみやレディースクリニック新病院完成披露会(和歌山) 参加〈院長〉
12. 2	第32回 日本生殖免疫学会総会・学術集会(東京) 参加〈後藤香〉 発表:「脱落膜化子宮内膜間質細胞のプロテアーゼ活性化型受容体(PAR)-1を介した細胞機能調節」 (後藤香里)
12. 5	院内全体研修:避難訓練(担当:看護部)
12. 9	第107回新患教室 参加者63名 参加〈後藤彩、瀬戸口、平田、濱、橘、大津、秦岡、宮田、渡邊、戸高、松土〉

行事一覧

12. 9	忘年会
12. 9	日本生殖心理学会 2017年度(第11期)生殖医療相談士養成講座(東京) 参加<青木>
12.12	第223回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
12.12	大分がん・生殖医療研究会世話人・運営委員会(大分) 参加<熊迫、坂本、越光、院長>
12.14	第1回 JAPCO (Japan PGD Consortium) 世話人会(兵庫) 参加<城戸、大津、院長>
12.15	第3回 日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会(兵庫) 参加<城戸、大津、院長> 発表:「ヒト胚盤胞の栄養外胚葉と内細胞塊の染色体構成についての検討」(城戸京子) 「ヒト胚の動的変化時間と染色体数的異常の関係」(大津英子)
12.15	遺伝カウンセリング・ロールプレイ研修会(兵庫) 参加<院長>
12.19	マネジメントレビュー
12.23	第244回 体外受精教室 参加者57名 参加<後藤彩、瀬戸口、平田、大城、橘、神田、後藤香、秦岡、宮田、渡邊、手島>
12.25	クリスマス会
12.26	院内感染研修:梅毒について(担当:看護部)

著書(共著)一覧

「培養液の現状」(院長)『生殖補助医療(ART) 胚培養の理論と実際』(株式会社近代出版)

「不妊治療の助成金制度」(院長)『産婦人科の実際』第66巻第13号(金原出版株式会社)

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

1993年から、セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、国内外から著名な先生方を講師にお招きし、開催している。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演や胚培養士の話題、臨床心理士やピアカウンセラーによる心のお話等多岐に渡り、医師だけでなく、生殖補助医療に携わる全てのスタッフにとって興味深いプログラムになるよう工夫している。講師との距離が非常に近いため、質問もしやすく、質疑応答の時間や総合討論の時間など、毎回熱いディスカッションが行われる。休憩時間にも熱心に質問する姿があちこちで見られ、非常に有意義なセミナーである。

セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院スタッフで行っている。

がん・生殖医療フォーラム大分

開催頻度：不定期

がん治療前の卵子・精子・受精卵の保存（妊娠性温存）はまだ十分には周知されていない。大分県内の全てのがん患者が、「治療後に赤ちゃんを望める」という希望を持ちながらがん治療を受けられるようにするために、大分県内の広範囲にわたるがん治療専門医と連携をとり、フォーラムを行っている。このフォーラムの発足（2018年1月）の前には2014年9月に「おおいた乳がん生殖医療ネットワーク」を設立した経緯がある。

大分性教育セミナー

開催頻度：1回／1年

不妊症患者の初診時の年齢の上昇に伴い、不妊知識調査を行ったところ、患者が「性」に対し、「避妊」について学ぶ機会はあっても、「不妊」や「生殖年齢」についてなど、大切な情報が不足していることが分かった。また、昨今の若者を取り巻く社会環境の変化に伴い、「性」に関する社会の状況、個々の考え方や概念など間違った性知識や危うい性行動などが広がっている。そこで、2013年より、当院の活動の一環として、児童養護施設別府平和園の子どもたちに対する性教育に加え、大分県内一般の方や教職員の方々に対しての性教育セミナーを開催している。

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

2017年4回開催 参加のべ人数346名

受診中の患者以外にも広く不妊治療を知らう目的で、3ヵ月に1回（年4回）外部の会場で、参加者の方がリラックスして聞いていただけるよう、コーヒーとケーキを用意し開催している。

院長が詳しく説明した後、泌尿器科（協力病院）の医師による男性不妊の治療についてのお話、臨床心理士による心のお話、看護師による診療やサポート体制、受付スタッフによる助成金等のお話をしている。また、OG（当院で治療後赤ちゃんを授かり出産した方）のお話もあり、OG自身の治療歴や、治療中の悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者の立場からお話をしていただけるため、毎回好評である。

新患教室

2017年7回開催 参加のべ人数486名

当院の多目的室にて、初診時の検査から体外受精までの一連の流れを、院長が2～3時間にわたりて詳しく説明した後、看護師から診療やサポート体制についての説明を行っている。また、培養室、受付、臨床心理士からのお話も行っていく。早い時期に夫婦で参加するため、夫婦二人で取り組む意識が強くなり、その後の治療に対する理解にも役立っている。

体外受精教室

2017年12回開催 参加のべ人数661名

初めて体外受精を受ける患者向けに、治療の過程やスケジュール、体外受精前後の体の変化など、院長が3～4時間にわたってわかりやすく説明し、その後、看護師、培養室、受付、臨床心理士から説明を行っている。

「受精は神秘的なもので、それに関わる体外受精はとても繊細な技術で病院側の誠意と努力をとても強く感じました」「不安に思っていたことが軽減され、不安なく体外受精に進むことができそうです」「最後の先生の夫婦仲良くが原点という言葉には胸をうたれました」など、患者からの率直な感想も聞かれる。

教室はご夫婦での参加としているため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療のステップアップにも役立っている。

新患オリエンテーション

初診時診察終了後に、不妊治療に対する教育を受けた看護師や臨床心理士が、写真や図を使い、患者への病状説明や、今後の治療の進み方などの説明・相談を行っている。患者の質問や不安に対して個別に対応も行っている。

心理専門相談室

月曜日～土曜日（予約制および随時受付）

臨床心理士が治療中の気分の落ち込み、夫婦関係、日常生活のストレス、また今後の治療への迷いなどのカウンセリングを行っている。一緒に考え、少しでも安心して治療が受けられるようなサポートを心がけている。

患者の治療の流れを見ながら声かけをしたり、初診時にお会いすることで不安の軽減や改めての来室にも繋がっている。

ガーネットサークル

2017年3回開催 参加のべ人数13名

当院で治療後、出産へと至った方にお願いして、現在治療中の患者との交流の場を設けている。その都度テーマを変え、対象を絞り、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるように心がけている。

参加者より、「治療に前向きになれた」との声も聞かれ、経験者の話を聞くことにより、患者の不安を取り除き、悩んでいるのは自分ひとりではないと再認識できる貴重な会となっている。

オリーブの会（第1～11期）

2017年5回開催（第11期） 参加のべ人数31名

40歳以上の患者の孤独感や不安を軽減させるため、また治療終結への思いを共有できる時間と場を提供することを目的として開催している。

同じ年代の同じメンバーに、臨床心理士と看護師を交え、治療のことや日頃感じていることなど、お茶を飲みながら、リラックスした自由な話し合いの場となっている。

治療の終結を決断した

元患者さんのお話が聞ける会

開催頻度：1回／1年

不妊治療の終結を決断し、ご夫婦だけの生活を選択された方に、現在治療中の患者に対して、治療当時の思いや、治療終結に至るまでの決断の経緯、現在の心境などのお話ををしていただいている。

ご夫婦で参加される方もおり、質問や意見交換も活発に行われる。治療中の患者にとって今後の治療や、これから二人の生活を考えることができる貴重な時間となっている。

ウェイトサークル

開催頻度：不定期

肥満はホルモンバランスに影響を及ぼしたり、妊娠後や出産時にもリスクを伴う恐れがあると言われているため、BMI25以上の方を対象に、体重指導を行っている。

院長相談

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

治療内容・治療計画・治療終結に向けての相談など、治療をする上で迷ったり悩んだ時、普段の診療では聞きにくいことを、他の患者を気にすることなくゆっくりと相談することができる。

なんでも相談（看護部）

不妊治療を行う上での不安・ストレスや悩み、治療についての質問、体外受精などのステップアップに関するアドバイスなど、多岐にわたる相談を受ける場を設けている。（予約制）

オリエンテーションルームで個別に相談ができるため、他者に話を聞かれる心配をせず、ゆっくりと相談することができる。希望があればARTに関する相談や治療の内容についての説明を行っている。

なんでも相談（培養室）

（胚培養士資格保持者による相談）

月曜日～土曜日の11:00～12:00（予約制）

体外受精における不安や疑問等の相談を随時受け付けている。

その他

外来相談係（看護部）

医師の診察時に聞けなかった質問や、細かな訴えなどを傾聴し、説明・相談を行っている。また患者の電話での問い合わせにも対応している。

手術前説明（看護部）

手術を予定している患者に、手術前の問診・各種検査（胸写・心電図・肺機能検査・血液検査）を行い、パスを用いて入院から退院までのスケジュールの説明を行う。

手術前説明（院長）

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

手術予定の1週間前までにご夫婦でご来院いただき、麻酔方法・手術内容について説明を行う。

手術後説明（院長）

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

手術時の映像（動画）を見ながらご夫婦に、結果説明・今後の治療方針・治療計画の説明を行う。

ARTオリエンテーション（培養室）

（胚培養士資格保持者による説明）

体外受精初回時に体外受精の方法、流れについて説明を行う。

ARTに関する説明（培養室）

（胚培養士資格保持者による説明）

体外受精胚移植または融解胚移植前に、医師の指示のもと説明を行う。

全胚凍結した場合、凍結した胚の説明を医師の指示のもと行う。

体外受精後、移植または全胚凍結ができなかつた場合に医師の指示のもと説明を行う。

ART結果説明（看護部）

院長よりARTの結果についての説明のあと、今後の治療の流れについての説明を行う。

全体朝ミーティング

毎朝、診療開始前に外来にて、職員全員で朝ミーティングを行っている。受付より当日の診察内容毎の予約患者数、研究室・培養室より当日の採卵・胚移植・精液検査の予定、心理専門相談室より当日の相談の予定、看護部より当日の手術予定について報告している。職員全員が参加し、情報を共有することにより、全員が一日の診療の流れを把握することに役立ち、士気を高めることに繋がっている。

院内研修・ミーティング

毎週火曜日の午後、職員全員が参加して行っている。研究室・培養室より、研究結果の報告、海外論文詳説、各部署より「ヒヤリ・ハット」を報告し、今後のために協議している。また、その週に治療を受ける患者について治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者のケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、全員が発言する機会を作っている。

培養室朝ミーティング

毎朝、培養室にて、当日の採卵予定患者の検査結果、胚移植予定者、培養中の胚の観察結果報告、当日の業務の流れの確認を医師を交えて行っている。

培養室ミーティング

1ヵ月に2回、培養室の職員全員で、日常業務の問題点や改善点、各々の研究テーマについての話し合い、学会報告、基礎知識に関する勉強会を行っている。

スタッフ配置

院 長	宇津宮隆史
医 局	河邊史子、甲斐由布子
研究室・培養室	大津英子、熊迫陽子、長木美幸、後藤香里、城戸京子、神田晶子、小池恵、橘るい、後藤厚子
看 護 部	後藤裕子、越光直子、松土留美、川村智恵、手島しおり、松元恵利子、足立直美、坂本順子、亀井里砂、北田奈津枝、戸高里美、渡邊美智代、宮田美紀、佐藤昭江、吉良美咲、秦みのり、渡辺千枝、土谷里沙、糸永優子
心理専門相談室	稗田真由美(臨床心理士)
総 務 部	宇津宮富美子
受 付	越名久美、大城麻依、瀬奈津美、青木桜、川内玲菜、平田春菜、廣瀬尚美
情 報 処 理 室	安部里美、瀬戸口美和、後藤彩美
厨 房	矢野千恵美、油野亜由美

有資格者

日本産科婦人科学会産婦人科専門医	宇津宮隆史、河邊史子、甲斐由布子
日本産科婦人科学会産婦人科指導医	宇津宮隆史
日本生殖医学会生殖医療専門医	宇津宮隆史、河邊史子
日本内視鏡外科学会技術認定医	宇津宮隆史
日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医	宇津宮隆史
日本医師会認定健康スポーツ医	河邊 史子
日本卵子学会および日本生殖医学会認定生殖補助医療管理胚培養士	大津英子、熊迫陽子
日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士	長木美幸、後藤香里、城戸京子、神田晶子、小池恵
日本生殖心理学会認定生殖心理カウンセラー	稗田真由美
日本生殖心理学会認定生殖医療相談士	後藤裕子、手島しおり、城戸京子、小池恵、青木桜
日本人類遺伝学会臨床細胞遺伝学認定士	城戸京子
日本看護協会不妊症看護認定看護師	手島しおり

病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所																														
開設年月日	1992年6月3日																														
住 所	〒870-0823 大分県大分市東大道1丁目4番5号 TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/																														
許可病床数	13床																														
職 員 数	<p>総数45名</p> <table><tbody><tr><td>常勤医</td><td>3名</td><td>総務部</td><td>1名</td></tr><tr><td>臨床心理士</td><td>1名</td><td>受付</td><td>7名</td></tr><tr><td>研究室・培養室</td><td>5名</td><td>情報処理室</td><td>3名</td></tr><tr><td>検査室・培養室</td><td>4名</td><td>調理士</td><td>1名</td></tr><tr><td>看護師</td><td>12名</td><td>栄養士</td><td>1名</td></tr><tr><td>准看護師</td><td>5名</td><td></td><td></td></tr><tr><td>メディカルアシスタント</td><td>2名</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>			常勤医	3名	総務部	1名	臨床心理士	1名	受付	7名	研究室・培養室	5名	情報処理室	3名	検査室・培養室	4名	調理士	1名	看護師	12名	栄養士	1名	准看護師	5名			メディカルアシスタント	2名		
常勤医	3名	総務部	1名																												
臨床心理士	1名	受付	7名																												
研究室・培養室	5名	情報処理室	3名																												
検査室・培養室	4名	調理士	1名																												
看護師	12名	栄養士	1名																												
准看護師	5名																														
メディカルアシスタント	2名																														
診療時間 (受付予約制)	<p>月・水・金： 8:30～11:30 13:30～15:30 17:00～18:30</p> <p>火・土： 8:30～11:30</p> <p>(祝日を除く)</p>																														

〈本年報の集計も SarahBase を用いました〉

St.Luke 2017年 年報

2018年6月 発行

発 行：医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集：宇津宮 隆史
〒870-0823
大分県大分市東大道1丁目4番5号
TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

